

Creating the Future of Energy

個人投資家様向け 会社説明会



株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

2026.9.17

1. 会社概要



会社名	株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション
設立	2004年4月1日 ※日本電池(1917年設立)とユアサ コーポレーション(1918年設立)が経営統合
本社	京都市南区吉祥院西ノ庄猪之馬場町1番地
資本金	528億円
売上高	6,090億円 (2026年3月期)
従業員数 (連結)	12,562名 (2026年3月31日現在)
上場市場	東京証券取引所 プライム市場 (証券コード: 6674)



代表取締役 取締役社長 阿部 貴志

1989年4月に日本電池(現GSユアサ)に入社。営業職からアメリカ子会社の社長を経験し、経営戦略室においてパナソニック(株)の鉛蓄電池事業の譲受に携わった後、(株)GSユアサ エナジーの副社長、産業電池電源事業部、自動車電池事業部事業部長を経て2024年6月に当社代表取締役 取締役社長に就任。



企業理念

革新と成長

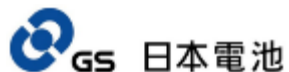
GS YUASAは、社員と企業の「革新と成長」を通じ、人と社会と地球環境に貢献します。

サステナビリティ 経営方針

GS YUASAは、電池で培った先進のエネルギー技術で世界のお客様へ快適さと安心をお届けし、持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指します。

1. サステナビリティ課題の解決に貢献し、社会と共に永続的に成長します。
2. 公正で健全な経営を遂行し、持続的な成長を支える強固な事業基盤を保持します。
3. 多様なステークホルダーと対話し理解を得ながら、信頼関係を構築します。

2人の創業者



科学の申し子と呼ばれ、
さまざまな発明品を
生み出し、日本の十大
発明家のひとりとして
選ばれた発明の人



日本電池(株)創業者
島津 源蔵



湯浅電池製造(株)創業者
湯浅 七左衛門



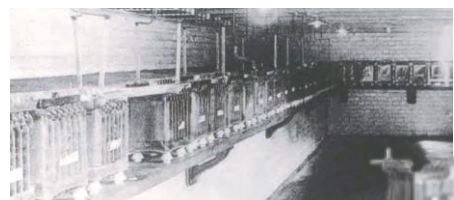
ユアサコーポレーション

優秀な頭脳と決断力で
湯浅家に新風を吹き込み、
事業拡大を果たし、
企業の近代化を推し進めた
事業の人



GSユアサ京都事業所の日本庭園「緑橙苑」

社会に役立つ革新を積み重ねてきました



電力の安定供給に貢献

1900年代
予備電源用大容量蓄電池を製造



一般家庭への ラジオの普及に貢献

1920年代
ラジオ用の蓄電池を供給



新しい移動手段を提供

1930年代
初の国産電気バスに
鉛蓄電池を提供



オートバイの 小型化に貢献

1950年代
オートバイ用小型軽量型蓄電池を発売

電気自動車（EV） ブームの一翼を担う

1970年代
高性能長寿命鉛蓄電池を開発



携帯電話の進化を支える

1990年代
小型角形リチウムイオン電池を開発

GS（日本電池）

1895

島津源蔵、
日本で初めての
鉛蓄電池を製造

1917

日本電池(株)設立

1919

自動車用
鉛蓄電池の
製造開始

1920

島津源蔵、
「易反応性鉛粉
製造法」を発明

1966

初の海外拠点となる
Siam GS Battery Co., Ltd
(タイ) 設立

1993

角形リチウム
イオン電池を
開発

1895

1900

1920

1930

1960

1990

YUASA（ユアサコーポレーション）

1915

湯浅七左衛門、
蓄電池の製造に
着手

1918

湯浅蓄電池
製造(株)設立

1920

自動車用
鉛蓄電池の
製造開始

1930

国産初の電気
バスに鉛蓄電池
を提供

1963

初の海外拠点となる
Yuasa Battery (Thailand)
Pub. Co., Ltd. 設立

1998

超薄型リチウム
イオンポリマー
二次電池を発売



価値創造の歩み - 成長の軌跡



2004年
(株)ジーエス・ユアサ
コーポレーション設立

日本電池
ユアサ
コーポレーション

GS
YUASA
GS YUASA

2007年
三菱商事(株)、
三菱自動車工業(株)と合併で
車載用リチウムイオン電池の
開発・製造・販売会社
(株)リチウムエナジー ジャパン設立

2009年
本田技研工業(株)と合併で
車載用リチウムイオン電池の
開発・製造・販売会社
(株)ブルーエナジー設立

2016年
パナソニック(株)から
鉛蓄電池事業を譲受し、
商号を(株)GSユアサ エナジー
に変更

2021年
サンケン電気(株)から
社会システム事業を譲受

2023年
本田技研工業(株)と合併で
EV用を中心とした
リチウムイオン電池の
研究開発を行う(株)Honda・
GS Yuasa EV Battery
R&Dを設立

GS YUASA × HONDA

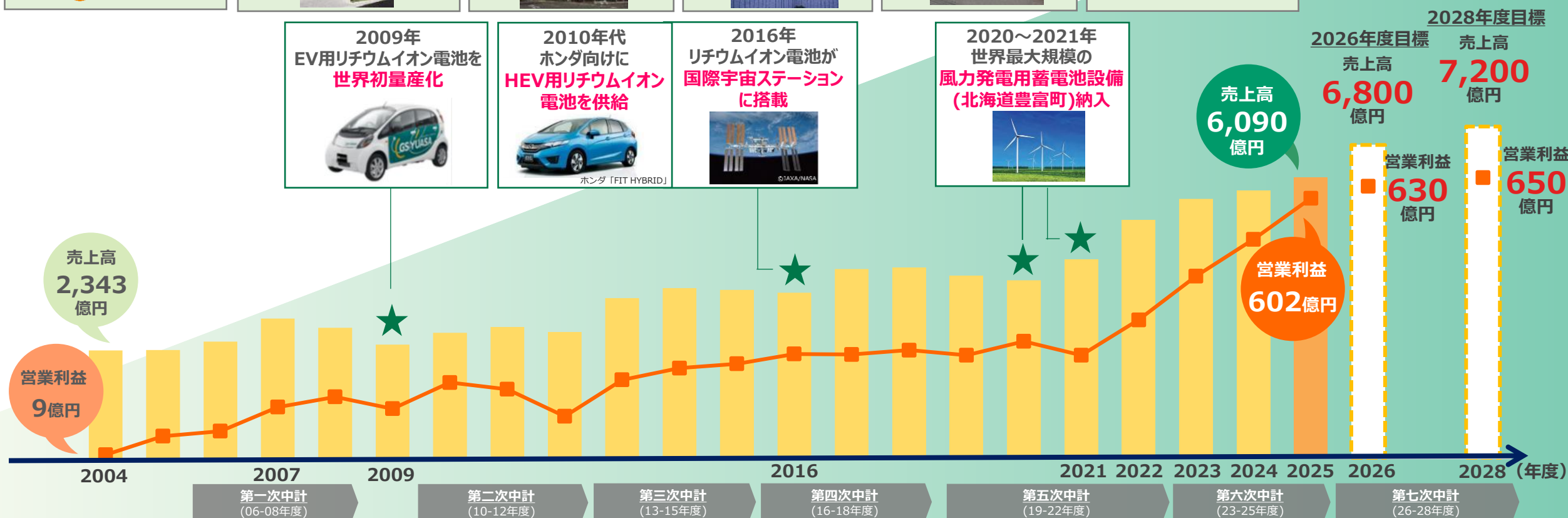
2009年
EV用リチウムイオン電池を
世界初量産化

2010年代
ホンダ向けに
HEV用リチウムイオン
電池を供給

ホンダ「FIT HYBRID」

2016年
リチウムイオン電池が
国際宇宙ステーション
に搭載

2020~2021年
世界最大規模の
風力発電用蓄電池設備
(北海道豊富町)納入





地域別売上構成と拠点展開



国内主要拠点

- GSユアサの事業所・支社
- 主要グループ会社

- ・ジーエス・ユアサ コーポレーション
- ・GSユアサ
- ・Honda・GS Yuasa EV Battery R&D



群馬事業所



川越事業所



- ・ジーエス・ユアサ バッテリー
- ・GSユアサ フィールディングス

GSユアサ エナジー



栗東事業所



- ・長田野事業所
- ・ジーエス・ユアサ テクノロジー
- ・ブルーエナジー

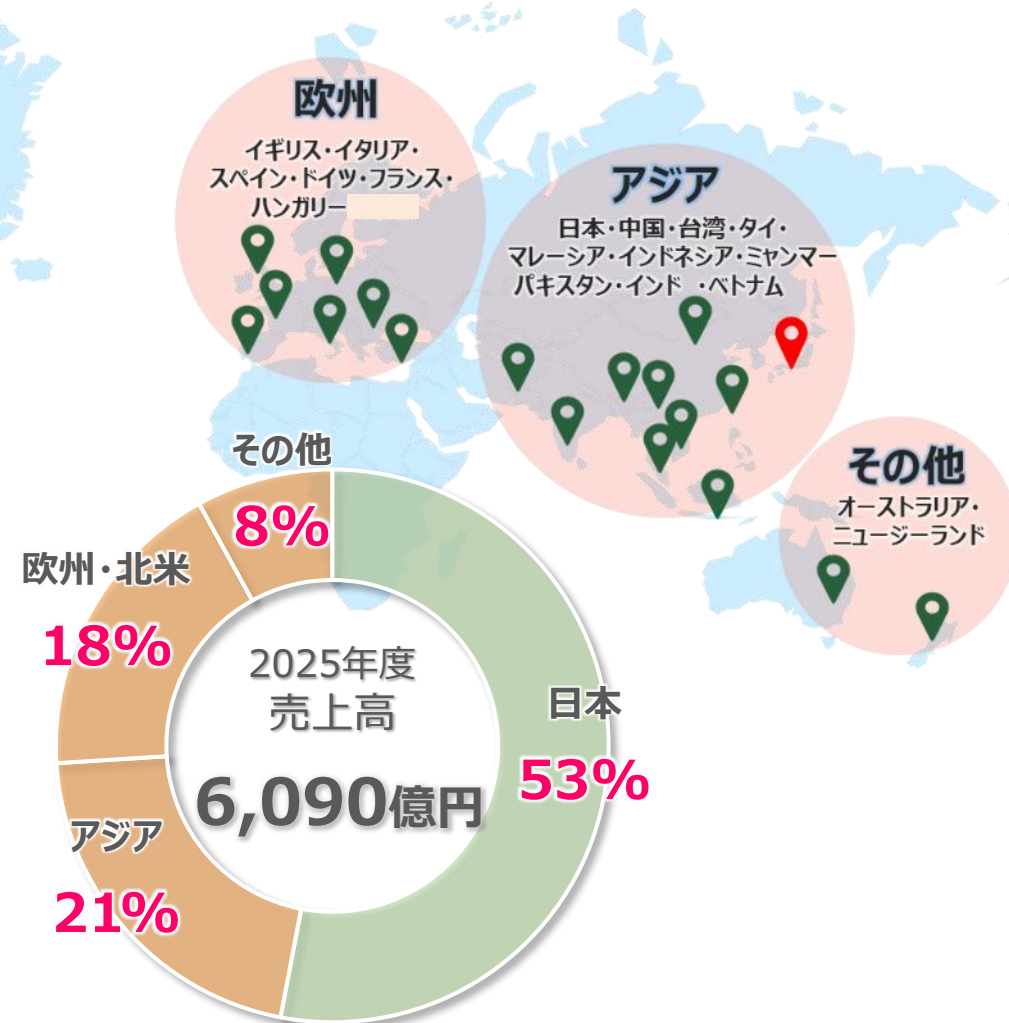


海外主要拠点

- 海外拠点
- ジーエス・ユアサ コーポレーション 本社



グローバル拠点数
18カ国 **34**拠点
(2026年6月時点)



2. 当社事業のご紹介

様々なフィールドで活躍するGSユアサ



At a Glance

こんなところにGSユアサ

GSユアサは、電池を通じて快適・安心・安全を提供するエネルギー・デバイス・カンパニーです。

当社の製品は、「モビリティ」と「社会インフラ」領域を中心に、世界中のあらゆる産業の中で人々の暮らしを支えています。

01 自動車

長年培ってきた技術力で、アイドリングストップ (IS) 車や電動車の補機用など、自動車の技術革新に合わせた電池を開発し、自動車の進化を支えています。



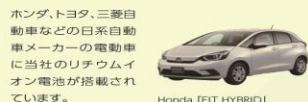
02 オートバイ

振動耐久性やエンジンの始動性など、オートバイ特有の使用環境に対応した技術で、世界で高い信頼性を獲得しています。



03 電動車

電気自動車 (EV)・プラグインハイブリッド車 (PHEV)・ハイブリッド車 (HEV) 用リチウムイオン電池が、環境対応車の普及に貢献しています。



04 鉄道

鉄道の環境性能向上とエネルギーの有効活用・安定輸送の実現に、当社のバックアップ用電池・電源システムが貢献しています。



ITWILIGHT EXPRESS 福岡 (提供: JR西日本)

05 港湾設備

コンテナを搬送する港湾AGV (無人搬送車) やガントリークレーンの電動化に、当社の産業用リチウムイオン電池が貢献しています。



06 発電所

発電所の安定稼働に当社のバックアップ用電池・電源システムが貢献しています。



07 太陽光発電・風力発電

天候に左右される太陽光発電の有効活用や防災機能の強化、風力発電の出力変動緩和と系統の安定化に蓄電システムが貢献しています。



蓄電池設備全景 (提供: 元千代田化工建設)

08 ビル

災害時の電力途絶を想定したバックアップ用電池・電源システムで、ビルの非常照明設備など、社会生活の安心安全に貢献しています。



09 データセンター

近年のデータセンターの需要増加に対し、当社のバックアップ電池が電力の安定供給に貢献しています。



10 宇宙 (ISS・人工衛星など)

過酷な環境下でも長期間使用でき、高容量・高性能な宇宙用リチウムイオン電池が、宇宙開発事業に貢献しています。



© JAXA/NASA
国際宇宙ステーション (ISS)

11 フォークリフト

工場内の運搬作業や物流の現場に欠かせないフォークリフトに、大容量かつ長寿命なバッテリーが採用されています。



12 航空機

最先端の航空機に当社の航空機用リチウムイオン電池が搭載され、環境性能と経済性の向上に貢献しています。



事業別売上構成と主な製品

社会インフラ

航空・宇宙・防衛

3%

その他 1%

宇宙用
リチウムイオン電池

航空機用
リチウムイオン電池



産業電池電源

25%

バックアップ用
電源システム

産業用
鉛蓄電池

フォークリフト用
鉛蓄電池



産業用
リチウムイオン電池

ESS用
リチウムイオン電池



モビリティ

鉛蓄電池（国内） 18%

自動車用
鉛蓄電池

オートバイ用
鉛蓄電池



鉛蓄電池（海外） 38%

自動車用
鉛蓄電池

オートバイ用
鉛蓄電池



リチウムイオン電池 15%

ハイブリッド車(HEV)用
リチウムイオン電池

バッテリーEV(BEV)・
プラグインハイブリッド車(PHEV)
用リチウムイオン電池



2025年度
売上高
6,090億円



モビリティ：鉛蓄電池（国内）



主な製品

自動車用鉛蓄電池



オートバイ用鉛蓄電池



市場シェア

自動車用鉛蓄電池
[新車向け]

国内シェア **1位 (71%)**

自動車用鉛蓄電池
[補修向け]

国内シェア **1位 (57%)**

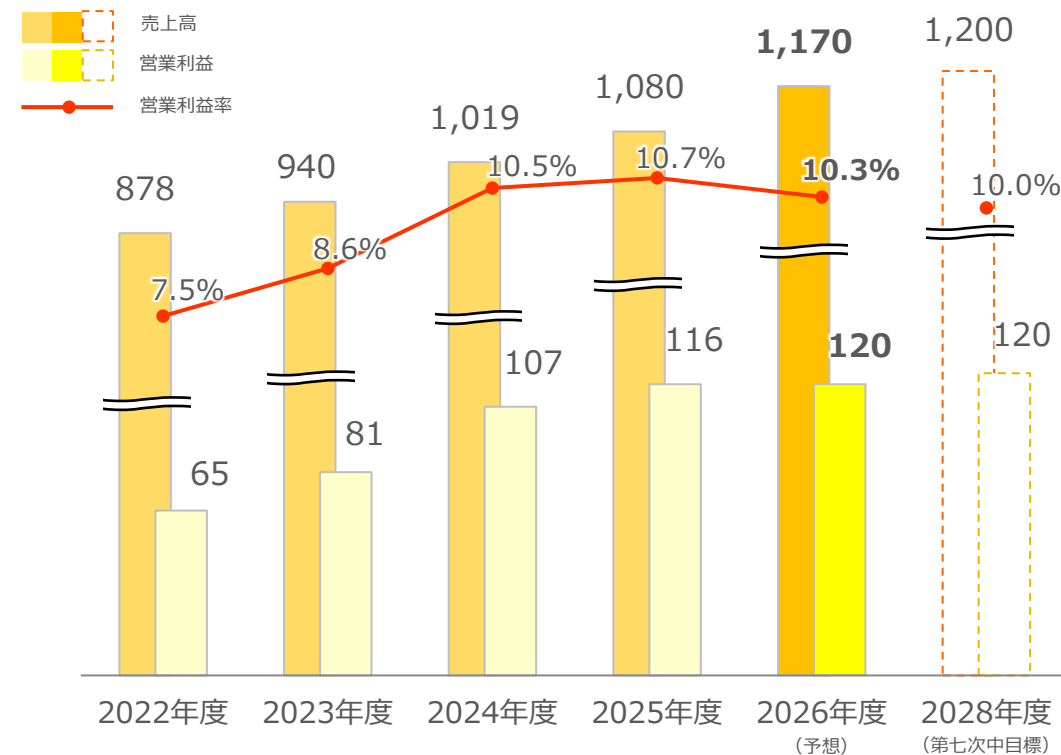
国内自動車・オートバイ用鉛蓄電池の製造・販売

- 新車向けと補修向けがある。
- 補修向けの方が利益率が高い。
新車向けでも売価改善を進めている。
- 10～12月が補修向けの需要期で、
夏:猛暑、冬:寒冬の時に需要が増加する。
- 鉛価格の変動が収益に影響。



※新車用：3～6か月後に販売価格に反映する仕組みあり、補修用：スライド制なし

売上高・営業利益・営業利益率



販売先

用途	販売先
新車向け	日系自動車メーカー
補修向け	代理店(電装店など)・カー用品量販店 カーディーラー・石油元売会社など



モビリティ：鉛蓄電池（海外）



主な製品

自動車用鉛蓄電池



オートバイ用鉛蓄電池



市場シェア

自動車用鉛蓄電池
[グローバル]

シェア **2位 (7%)**

オートバイ用鉛蓄電池
[グローバル]

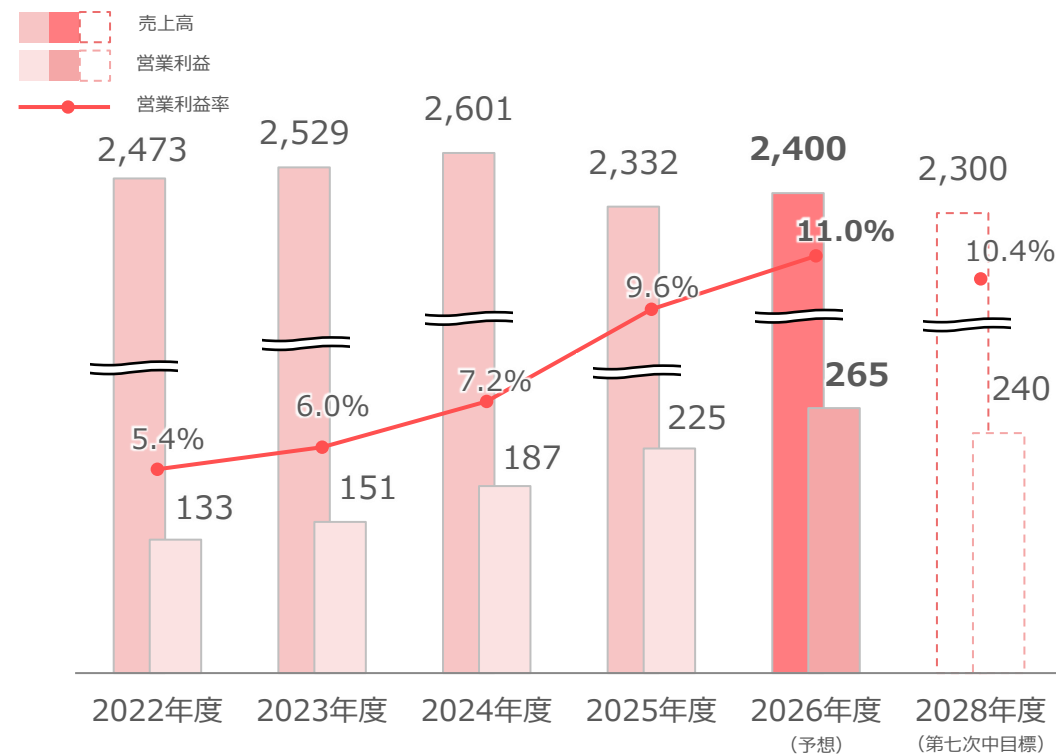
シェア **1位 (17%)**

海外自動車・オートバイ用鉛蓄電池の製造・販売 ※一部産業用を含む

- 自動車・オートバイ用共に補修向けの比率が高い。
- 主力拠点はアジアで、特にアセアン（タイ・インドネシア・ベトナム）のシェアが高い。
- 地産地消が基本のため、為替の利益影響は軽微。
- 2023年・2024年に中国における連結子会社の持分70%を譲渡。
- 2026年6月末にトルコ拠点を譲渡。



売上高・営業利益・営業利益率



販売先

用途	販売先
新車向け	主に日系自動車メーカー
補修向け	代理店など（国・地域によって異なる）



モビリティ：リチウムイオン電池



主な搭載車種

【HEV用】※下記以外にも多数車種に採用



FIT HYBRID



FREED



VEZEL HYBRID



RAV4 HIBRID

【PHEV用】



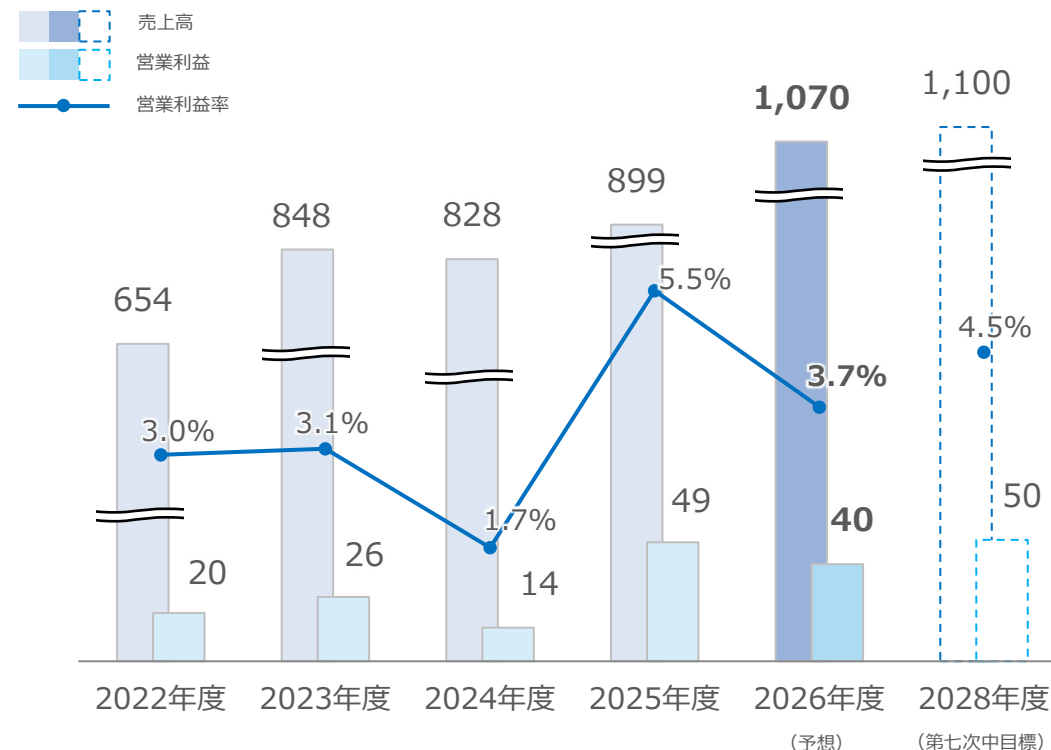
アウトランダーPHEV

国内・海外の環境対応車用リチウムイオン電池の製造・販売、産業用向けリチウムイオン電池の製造

- ハイブリッド車 (HEV) 用：高入出力性能、バッテリーEV (BEV) ・ プラグインハイブリッド車 (PHEV) 用：高いエネルギー密度、高出力性能が求められる。
- HEV用の需要拡大に対応するため、2025年度には生産能力を2022年度の1.4倍に拡大。
- PHEV用の需要拡大に対応するため、2024年に生産能力を1.2倍に拡大。



売上高・営業利益・営業利益率



販売先・事業体制

会社	出資比率	用途	販売先
BEC	GSユアサ51% ホンダ49%	HEV用	ホンダ・トヨタ・三菱
LEJ (現栗東事業所)	2024年度より GSユアサで事業継続	EV・PHEV用	三菱ほか
		ESS用	内部売上
GYHU	GSユアサ100%出資	始動用(12V)	欧州自動車メーカー



社会インフラ：産業電池電源



主な製品

バックアップ用
電源システム



産業用
鉛蓄電池



フォークリフト用
鉛蓄電池



ESS用
リチウムイオン電池



市場シェア

バックアップ用鉛蓄電池・
フォークリフト用鉛蓄電池

国内シェア **1位**

常用（ESS用）
リチウムイオン電池

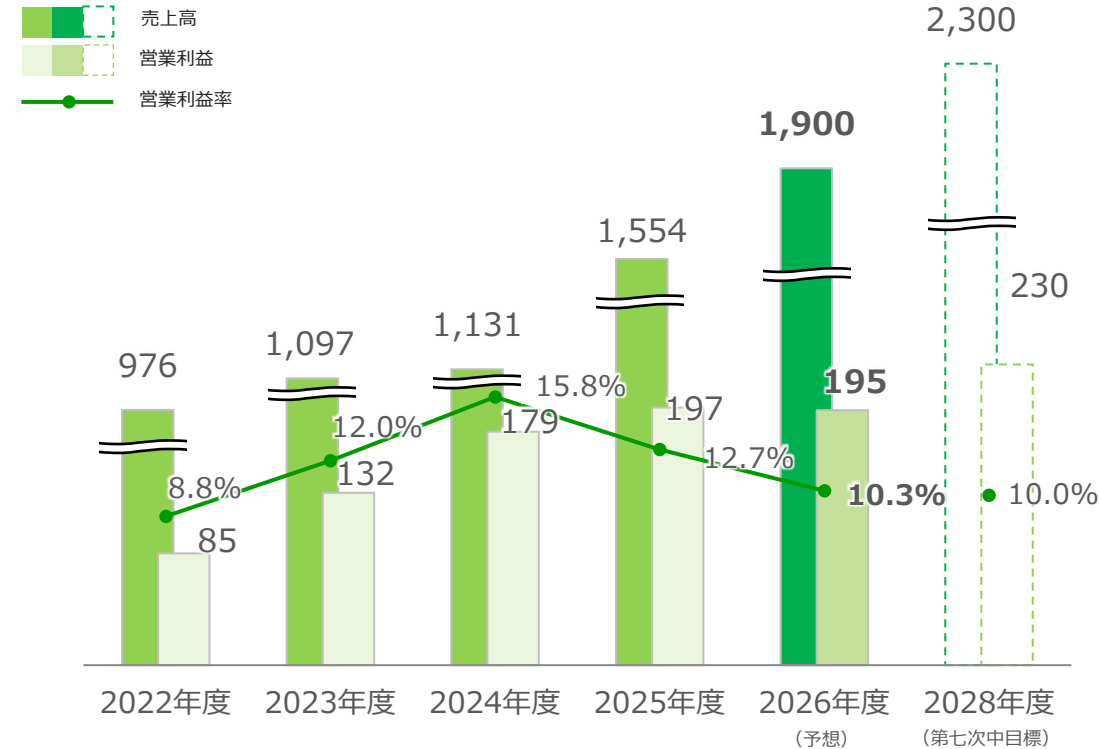
国内シェア **1位**

社会インフラの電力バックアップ用電池・電源装置、 フォークリフト用鉛蓄電池、再エネ用ESSなどの製造・販売

- バックアップ用は設計・製造から
工事・メンテナンスまで
ワンストップで行うため、営業利益率が高い。
- 官公庁向け案件は特に営業利益率が高い。
- 常用（再生可能エネルギー用）分野の売上高が増加傾向。
- 2026年度より北米AIデータセンター向けに納入開始。



売上高・営業利益・営業利益率

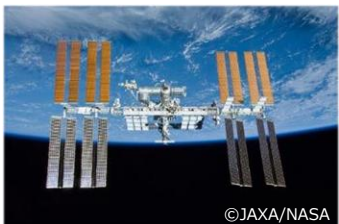


販売先

用途		種別	販売先
非常用 (バックアップ用)	通信基地局、発電所、鉄道 などの社会インフラ設備	鉛	鉄道、電力、官公庁、 通信キャリア、民需など ※代理店や工事会社、電機メーカー などを经由する場合もある
		リチウム 電源装置	
常用(ESS用)	事業所ピークカット・シフト 太陽光／風力向けESS	リチウム	
フォーク リフト用	フォークリフトなど	鉛	フォークリフトメーカー、代理店



主な採用・搭載機種



ISS
(国際宇宙ステーション)



Boeing 787



潜水艦
提供：海上自衛隊

市場シェア

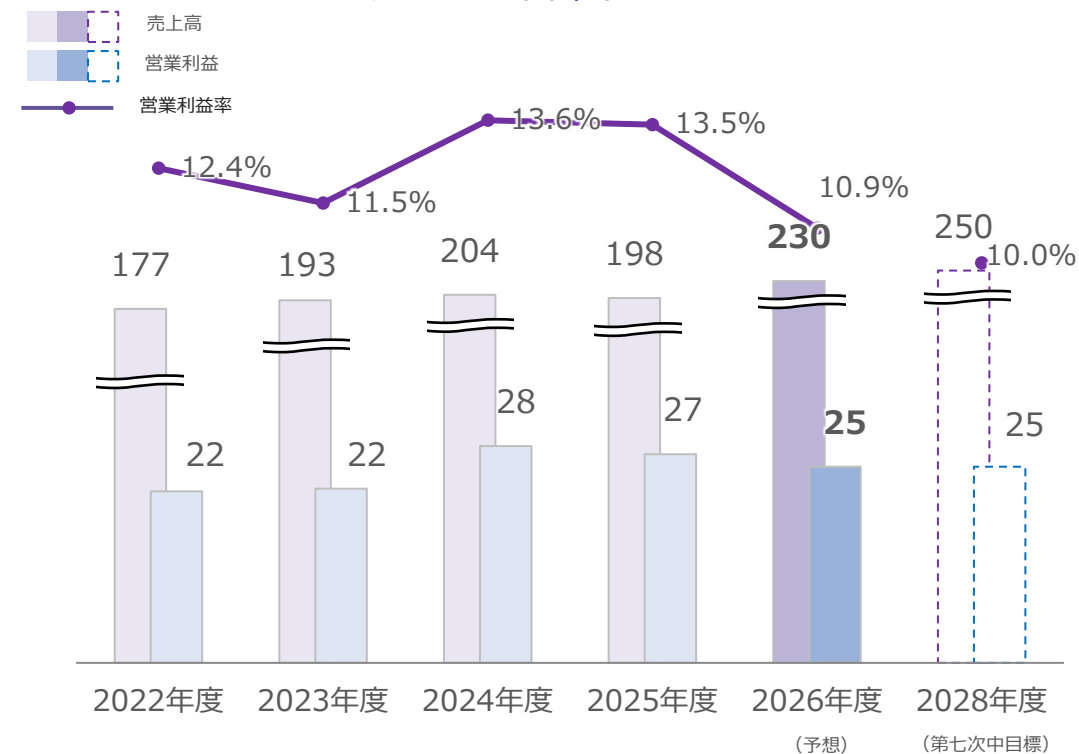
宇宙用リチウムイオン電池シェア
世界トップクラス
(軌道投入量ベース)

潜水艦用リチウムイオン電池
国内唯一の製造メーカー

ISS(国際宇宙ステーション)、人工衛星、航空機、潜水艦用 など特殊用電池の製造・販売

- 宇宙や航空・深海など特殊環境のフィールドで使用されるため、高性能かつ高品質な商品が求められている。
- 防衛関連である潜水艦用リチウムイオン電池や特殊用途向け熱電池の需要が急拡大。
- 航空機用リチウムイオン電池の補修向け需要が増加傾向。

売上高・営業利益



販売先

用途	販売先
潜水艦用	日本政府（防衛省・防衛装備庁）
航空機用	航空機メーカー（ボーイング）／エアライン（JAL・ANAなど）
宇宙用	JAXAなど

3.当社の長期ビジョン（Vision 2035）

2035年のGSユアサのありたい姿

GS YUASAは、4つの『Re』をキーワードにエネルギー技術の革新をすすめ、モビリティと社会インフラの成長による社会課題解決に貢献し、持続可能な社会と人びとの快適な生活環境を実現します。



事業環境変化

当社への影響（機会・リスク）

機会

リスク

モビリティ

社会インフラ



BEV拡大の鈍化

- 各OEM、BEV拡大の戦略を取っていたが、市場が急減速し各OEM戦略を方針転換



自動車用鉛蓄電池のアフターマーケットの拡大

- 自動車保有の長期化などにより、アフターマーケットが拡大傾向



テクノロジー進化による新規マーケットの勃興

- AI向けデータセンター（AIDC）の増加
- 再エネ市場における蓄電需要の継続



経済安全保障・エネルギー安全保障など安全保障意識の高まり

- 国内生産・供給体制強化への要望の高まり
- 防衛関連市場の拡大

BEV市場の前提変化により、事業収益性が読みづらい局面

電動化に左右されない鉛市場は底堅く更なる需要が見込まれる

販売構成の良化により収益性が向上

新市場拡大

（AIDC：高信頼性電源、ESS：系統安定化・再エネ対応）

純国産品・調達要件の強化を追い風に、産業用／特殊用途で需要拡大

モビリティ：鉛、LiBを両立する製品ポートフォリオで強固な基盤を確立

社会インフラ：鉛、LiB開発で磨いた力で、社会インフラを成長ドライバーへ

モビリティ

主要OEMとの強固な関係性と採用実績

- 国内外主要OEM向けに長年の採用実績を有し、継続受注・車種横展開を実現
- 厳格な車載品質要求・監査基準を継続的にクリアし、開発段階からの共同開発が可能

鉛、LiBを両立する製品ポートフォリオ

- 鉛蓄電池からHEV／12V LiBを通して培ったサイクル劣化抑制と高電流対応技術

国内外に広がるアフターマーケット基盤

- 鉛蓄電池で確立した国内外の販売・流通ネットワークを保有し、安定した交換需要を獲得
- 長年のビジネスによるブランド認知と販売店網により、高い市場浸透率を維持

社会インフラ

高出力×長寿命を実現する電池性能

- 自動車用鉛蓄電池およびHEVで一貫して高出力が求められる電池の開発実績
- 直近のインフラ向け案件では、この評価軸が決め手となり、受注

長年の実績に基づく安心・安全の信頼性

- 防衛用途でも高い評価を受けている高い信頼性
- ESSで10年超えても市場不具合が発生していない高い安全性

安定稼働を支える保守・運用（O&M）サービス力

- 国内非常用で、全国規模のサービス網を構築し、保守・点検・復旧まで一貫提供してきた実績
- ESSでは保守サービス「STARELINK」を展開し、導入後の安定運用を継続的に支援

市場環境の変化と適切なリスク管理に基づき、成長性と資本効率を重視した重点投資で事業ポートフォリオを戦略的に転換し、次世代へ向け当社アセットを活用した新規事業の創造に挑戦



鉛事業は安定キャッシュの 最大化で成長投資の原資を創出



- ・ 新車向け市場は、SDV※による高容量の要求もあり、今後も堅調に推移
- ・ 安定的かつ高収益なキャッシュ創出をしていく



車載用LiBは選別投資で リスクを抑え、収益体質へ転換



- ・ BEVは事業環境の変化等を踏まえ検討中
- ・ HEV／PHEV／12V LiBは既存キャパシティの稼働を高め、収益性向上を高める



社会インフラは成長の柱とし、 重点領域へ集中投資で加速



- ・ ESS・データセンター領域における将来の長期契約・サービス収益につながる案件獲得に注力
- ・ 「蓄電池に係る供給確保計画」に基づき国産LiB工場を立ち上げ、国産電池セルからO&Mまで一気通貫で対応

※ SDV…Software Defined Vehicle の略。ネットワークを通じて車両機能を継続にアップデートする次世代自動車のこと。

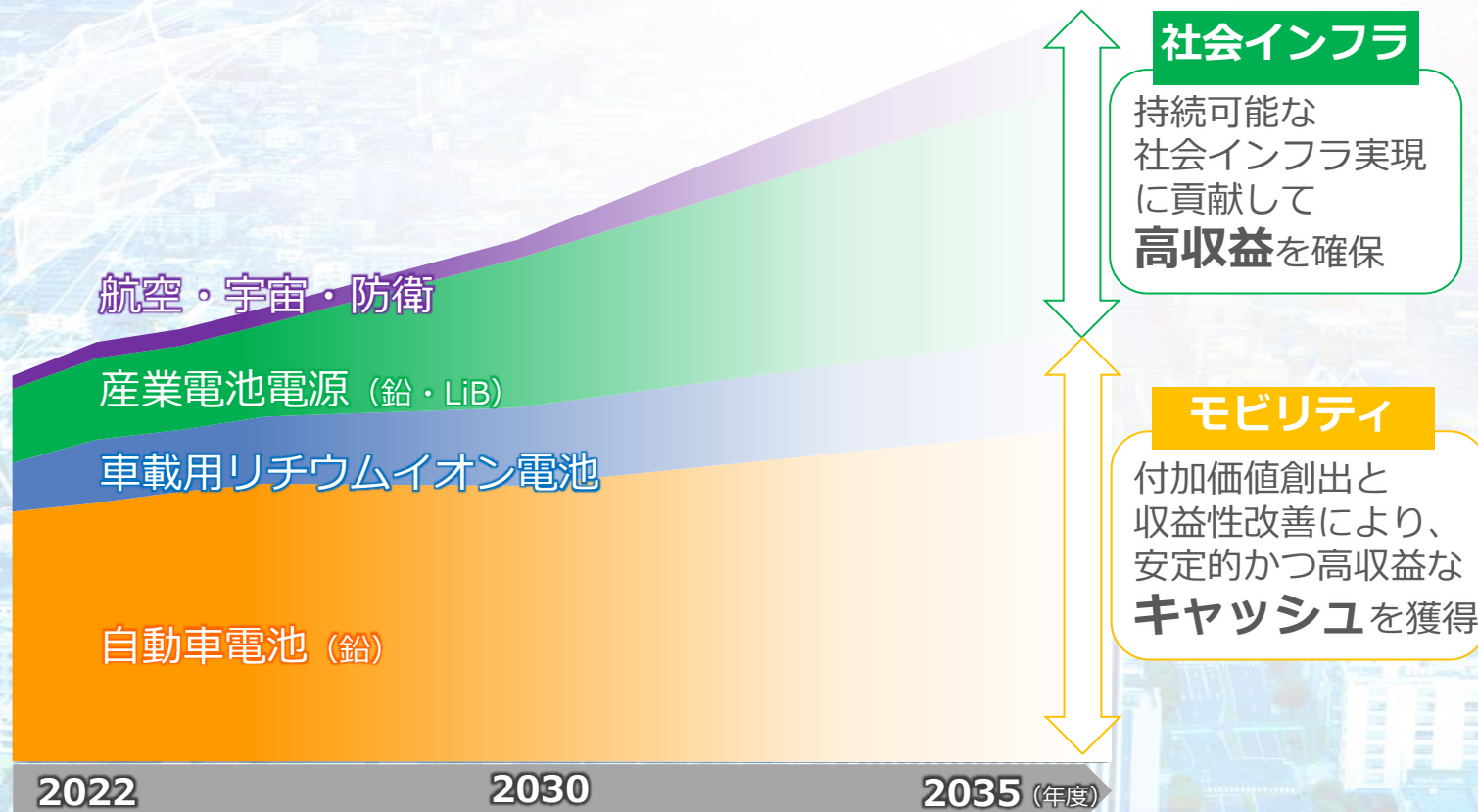


長期ビジョン（Vision 2035） -各セグメント成長-



市場環境の変化を踏まえ、Vision 2035で示した絵姿をアップデート

各セグメント成長イメージ



第八次中計期間中（～2031年度）
に達成見通し



2035年度

従来 売上高目標 **8,000億円**

※第六次中計時点 Vision2035

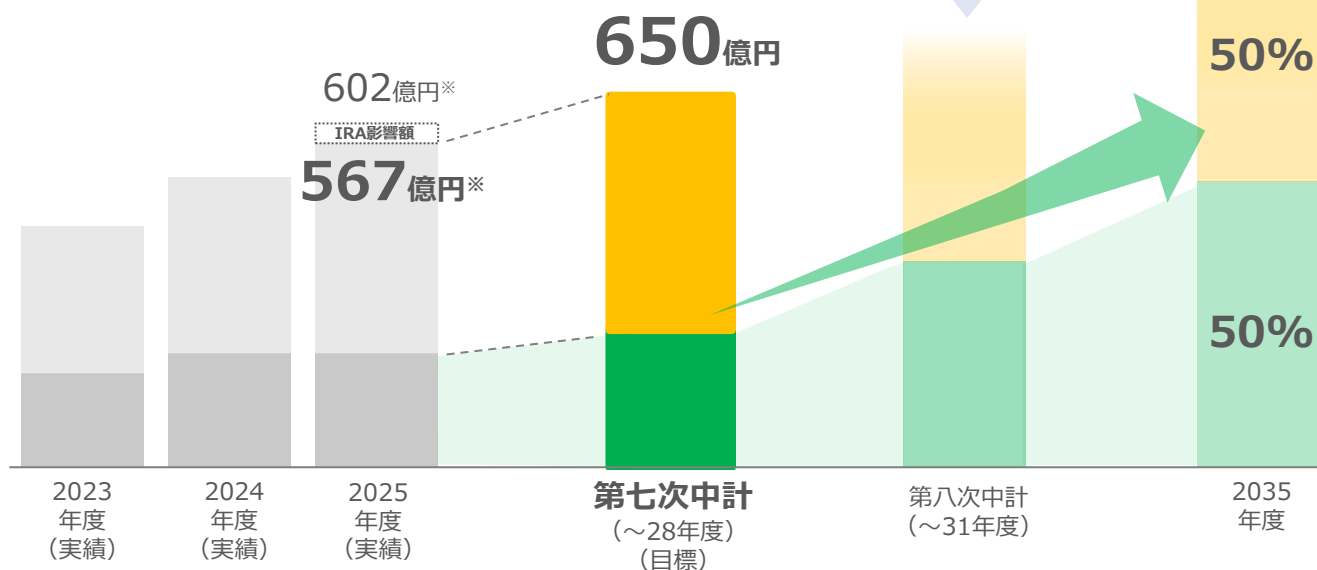
「モビリティ」と「社会インフラ」を両輪とし、2035年に向けて両領域の利益貢献が同等となることを目指す。
また鉛蓄電池事業については、引き続きキャッシュ創出を支える基盤として注力していく

営業利益推移イメージ

モビリティ 社会インフラ

モビリティで安定的に成長するとともに、
社会インフラで大きく飛躍することで、

早期に **750**億円以上を目指す



モビリティ

- 鉛蓄電池事業を中心に収益性を最優先に事業を運営し、安定的に高い利益水準を確保（投資は規律運用・効率改善を徹底）
- 原価改善・製品Mix改善・生産性向上で営業利益を着実に成長させ、35年度に向けても増益基調を継続

社会インフラ

- 第七次中計は投資・案件仕込み、28年度稼働を起点に利益が立ち上がり（長期契約・サービス収益の積み上げを加速）
- 第八次中計での利益成長をけん引し、2035年度に向けて利益貢献を50：50へ（ESS/AI/防衛などの重点領域で拡大）

(注) 2024年度以前の実績はのれん償却前営業利益、2025年度以降の実績・目標は営業利益で表示しています。
2025年度の実績は、営業利益602億円、IRA除く営業利益567億円です。



第七次で仕込み、第八次で回収フェーズへ

- 生成AIDC増設による電源需要と、再エネ拡大起点のESS需要が同時に立ち上がり、市場が拡大局面へ
- 顧客期待の高まりを背景に受注が拡大



第六次中計

市場立ち上がり
フェーズ



第七次中計

事業構築・先行投資
フェーズ

ESS工場投資（2026年度～）

稼働（2028年度下期）

- 国内の需要を確実に獲得し、ポジションを築き、海外も狙う
- 国産LiB製造に向けた工場・設備投資の実施（28年度後半から稼働開始）

- 稼働した新工場・新製品を柱に、国内・海外での売上を伸ばし確実に投資回収を行う
- さらにサービスビジネスの積み上げによる利益の最大化を図る



第八次中計以降
（2029年度～）

投資回収・飛躍
フェーズ



唯一無二の技術力を強みに需要を獲得し、持続的な成長を目指す

- 増産投資した生産能力を活用して収益拡大、
確実な投資回収
- 航空機向け大型LiBの需要拡大
- アルテミス計画をはじめとした宇宙用途の拡大

- LiB搭載潜水艦の新造艦および交換用
に対応するため増産投資
- 防衛用の特殊用途向け熱電池の
増産投資



第七次中計



第八次中計以降
(2029年度～)

投資回収・飛躍
フェーズ

事業拡大・増産投資フェーズ

潜水艦用LiB増産投資（2027～2029年度）

増産開始（2030年度）

熱電池増産投資（2026～2027年度）

増産開始（2028年度）

航空・宇宙・海洋向けLiB増産投資（2026～2027年度）

増産開始（2029年度）

..... 主な採用・搭載事例



ISS(国際宇宙ステーション)
©JAXA/NASA



H3ロケット
©JAXA



Boeing 787



潜水艦
提供：海上自衛隊殿

..... 主な取り扱い製品と用途

大型リチウムイオン電池



●宇宙 ●航空機 等

熱電池



●宇宙 ●特殊飛行体

リチウム1次電池



●海中機器 ●海洋標識 等

酸化銀 - 亜鉛電池



●防衛用

海水電池

●水中機器 ●海洋標識 等

大容量鉛蓄電池・ リチウムイオン電池

●防衛用(潜水艦用含む)



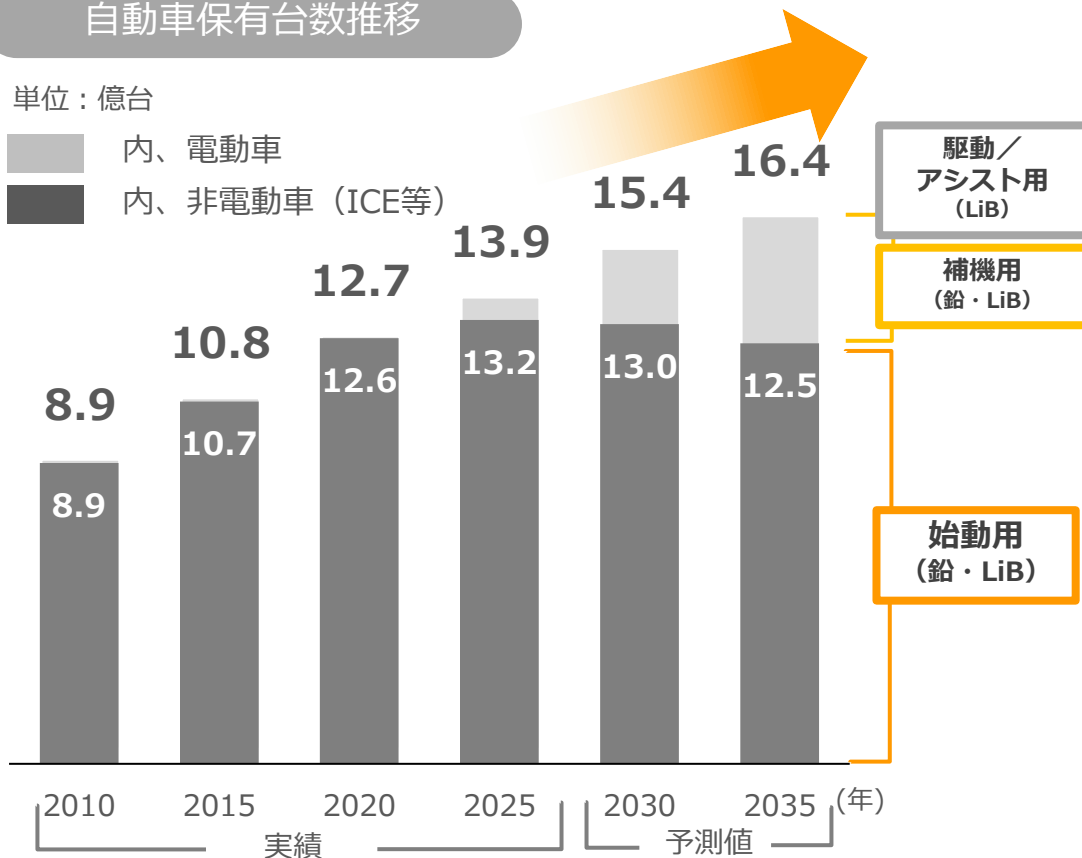
キャッシュの最大化で成長投資の原資を創出

自動車保有台数推移

単位：億台

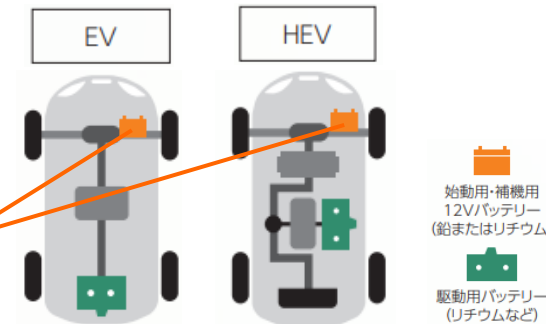
■ 内、電動車

■ 内、非電動車（ICE等）



出展：Wood mackenzie「No. of Road Vehicles (Car Parc)」(2026年4月16日時点)より当社作成

EVやHEVなどの電動車でも
鉛蓄電池は1台に1つ搭載
・始動用／補機用
(12V LiBは鉛蓄電池の代替品)



環境

- ・ 2035年でも非電動車が大半を占める
- ・ 電動車にも補機用電池（鉛蓄電池又は12V LiB）が搭載
- ・ 特に電動車は車両の消費電力量が増加しており、蓄電池の高容量化ニーズがある

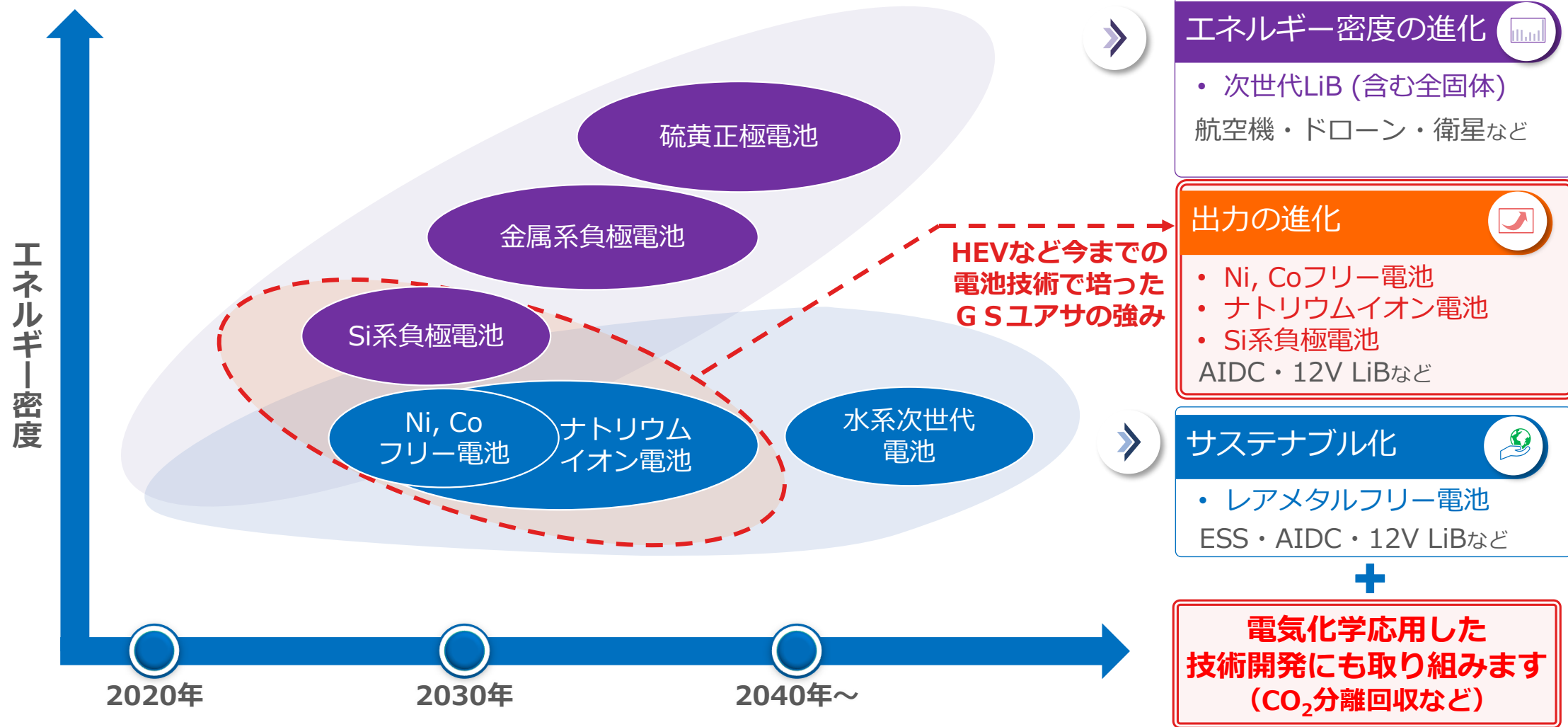
取組

- ・ 鉛蓄電池は収益性を重視してキャッシュを最大化
- ・ 高容量化ニーズに対応する蓄電池（鉛、12V LiB）を開発
- ・ 電動車の駆動／アシスト用は、収益性重視で既存のキャパシティを最大限活用



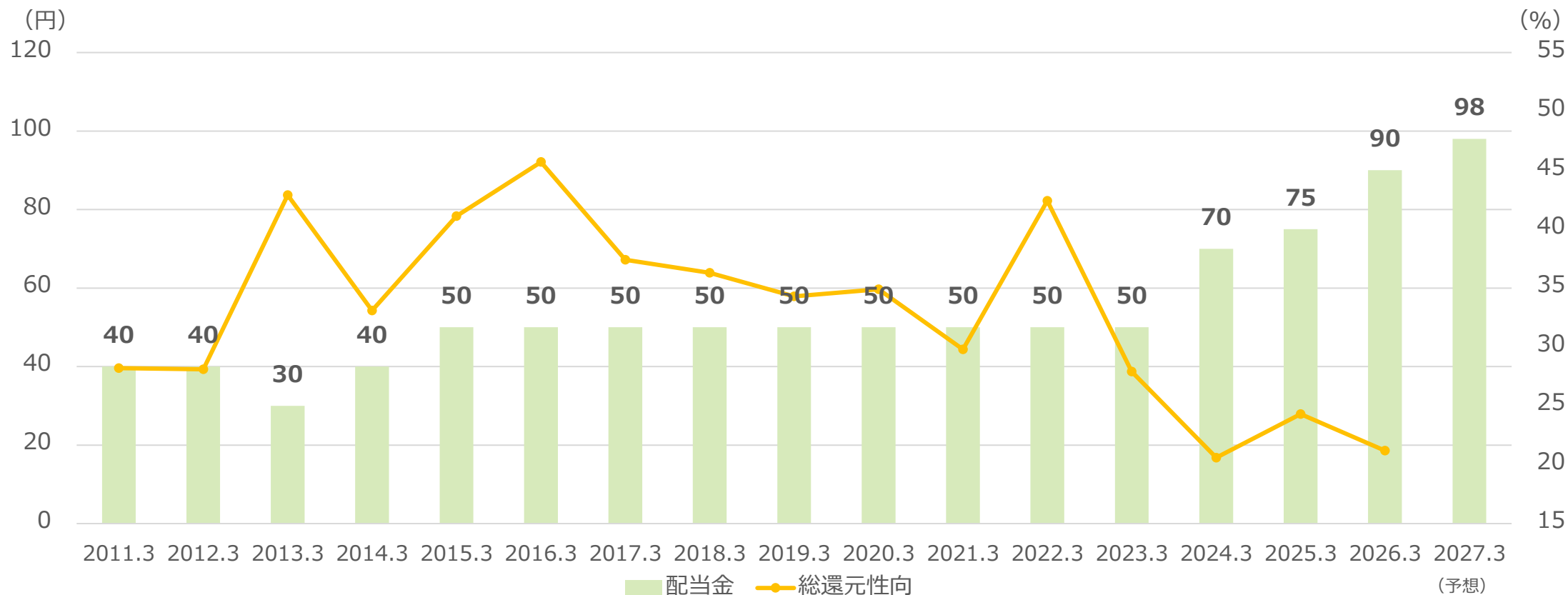
長期ビジョン（Vision 2035） -次世代技術ロードマップ-

高安全・長寿命・再資源化をキーワードに電池の進化を実現します





当社は単年度の利益変動に左右されず、将来的な収益拡大の成果を株主還元の向上として反映するために、株主資本配当率（DOE）3.0%を目安とする累進配当を目標としています。



本資料は、当社グループの業績等についての一般的な情報提供を目的とするものです。
本書に含まれる予測、予想、計画その他の将来情報は、当社において利用可能な情報に基づく現時点における当社の認識又は判断に基づくものであり、実際の結果はこれらの情報と大きく異なることがあります。また、当社は、本資料に記載された情報に変更又は更新があった場合にも、その内容を提供又は開示する義務を負うものではありません。



連絡先

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

コーポレート室（広報・IR） 柿島 辰年・青木 裕・田中 祥太・松沢 拓哉

Tel : 075-316-3486

<https://www.gs-yuasa.com/jp>